

旭山新聞

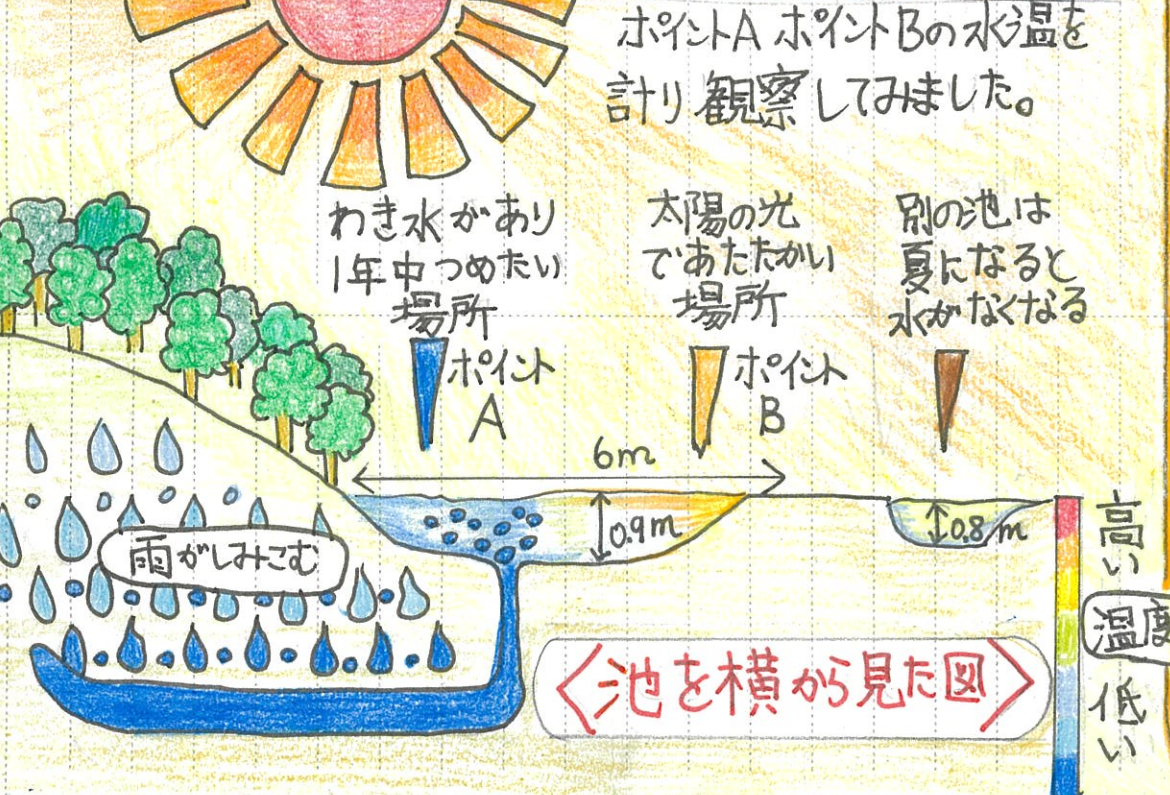
ふしぎ池 大解剖スペシャル2019

緑丘小学校5-1 旭山自然調査隊 高橋温史



ぼくの住む札幌市藻岩山やその近くの旭山旭山には今でも身近かに豊かな自然が残っています。しかし昔にくらべると生き物の数が減り、どのような状態で生き残っているかわかりません。そこで2016年に友達と旭山自然調査隊を結成し、生き物を調べ、活動を始めました。今年で4年目になる活動ですが、生き物の生態を調べていくうちに、多くの命を守るためには、生き物の物のすみかである木林やエサ(エサのバランス)を守る事が大切な事だと分かりました。活動を始めて都市環境林の中にある「ふしぎ池」についてまとめました。

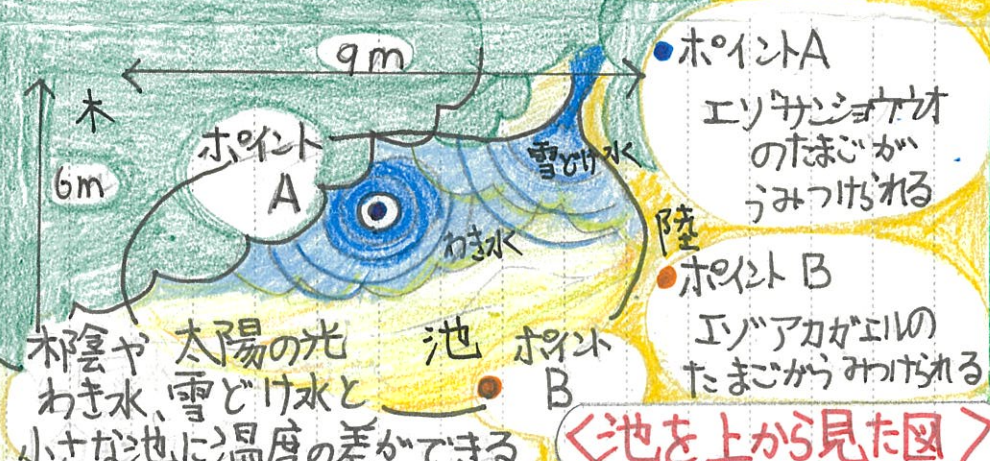
ふしぎ池 都市環境林にある池 6m x 9m x 0.9m だえん形



② 2つある池のうち一つの池の水がなくならないのはなぜ?

森林の中にある小さな池(6m x 9m)のふしぎにさせまします。

① わき水があった。雨や雪どけ水が木林に貯められ池の底からわき水として出ていることが分かった。



③ たまごをうむ場所がちがうのはなぜ?

④ 生き物によって好きな温度がある。

⑤ 水温を調べたところ毎年決まった温度のところに卵を産むことが分かった。エゾサンショウウオは急げきな温度の変化のない木陰や一年中水温のつめたいわき水がある所が必要だと分かった。

5月10日 30日間でおたまじゃくしに

4月30日 たまごの中でうごいている

4月16日 大きくなるたまご

4月10日 うみつけられたたまご

4月10日 産卵のため森から池へ

エゾサンショウウオの成長記録

編集後記

木林がなければ... エゾアカガエルもエゾサンショウウオも水の中の生き物だと思っていたが、一生のうち池の中にいる時間は短かく木林で暮らす時間の方が長いことがわかった。木林がなければ、わき水もなくなり、池がなくなれば、たまごをうむ場所もなくなり、多くの生き物がいなくなってしまう。小さな池に暮らす色々な命のつながりを守るため、これからもふしぎ池を守り、里山環境を守る活動が続けていきます。

⑥ 多くのエゾサンショウウオは一年で陸にあり木林にかえるが、ふしぎ池には冬を越すものもいる。成体になっているがエラがついたまま

5月15日